子どもたちの心に響く地域に貢献する活動を仕組むために

－　子どのたちの熱い思いが，教師の心，地域の心を変える　－

兵庫県たつの市立小宅小学校　教諭　石堂　裕
e-mail　oyake_es@tatsuno.ed.jp

キーワード：地域貢献，人とのかかわり，ポートフォリオ，自尊感情

１．はじめに

兵庫県たつの市立小宅小学校は，「童謡『赤とんぼ』の作詞者三木露風」のふるさと、たつの市の中心に位置する約９５０名の市内で最も児童数の多い学校である。校区に市役所をはじめ警察署や消防署，文化ホールなど市の施設はもちろん，駅，高速道路のインター，全国シェアを誇る素麺（揖保乃糸）施設，醤油（ヒガシマル醤油）工場があり，地域素材に恵まれた環境にある。この地域素材をいかに学習に取り入れるかを話し合った結果，総合的な学習の時間に「地域貢献活動」を取り入れて，今年で４年目を迎える。

学年	総合的な学習と関連する地域素材	主な関連教科	地域の協力施設，団体，企業
３年	赤とんぼ，醤油，三木露風	理科，社会科	市環境課，制服関連企業，地域団体
４年	ＪＲ姫新線，市の施設，三木露風	社会科，音楽等	県交通課，市企画課，ＪＲ，地域団体
５年	地場産業（皮革）	社会科，道徳等	市観光課，皮革工場，地域団体
６年	史跡，地場産業（素麺，紫黒米）	社会科，家庭科等	素麺組合，酒造企業，紫黒米協会等

表１　平成２１年度　総合的な学習の時間における各学年の地域貢献素材と関連教科，支援団体等一覧

２．学習プロセスは「人とのかかわり」を意識して

（１）「人とのかかわり」を重視することで，子どもたちの学ぶ意欲に働きかける

本校の校内研究テーマ『協同的な学びの中で「人とかかわる力」を育成する学習づくりの創造』の実現に向けて，生活科や総合的な学習の時間は欠かすことのできない貴重な学習時間である。子どもたちの生き方と深く結びつく「人とかかわる力」を育成するためにも，学年に応じて様々な人とかかわりながら「市民の一人として自分にできることは何か」を考えさせてきた。

例１：まちのシンボル「アキアカネ」が減っていることを受けて，アキアカネを増やすために，川のクリーン作戦をしたり，市や市民団体と協力して地域のみなさんにＰＲ活動をしたりする。（３年）

例２：姫新線の乗客が減少していることを受けて，県や市のみなさんとともに姫新線のよさを地域のみなさんに知らせていく。（４年）

写真１　川のクリーン作戦

まず，子どもたちは，自分たちがしたことが，どんなに小さなことでも，認められ，感謝されるといっそう意欲的になる。「先生，次は○○しようよ。」といったつぶやきが増え，その都度，「じゃあみんなに提案してごらん」と「人とかかわる」場面をつくることで，子どもたちは，主体的に学習活動を構成するための目的意識や相手意識を明確にするのである。

また，身近な友だちだけでなく，地域の大人や離れた学校との交流は，子どもたちを本気にさせるきっかけとなる。子どもたちに調査したところ，何かを伝えようとした時，「中途半端じゃいけない。伝わらない」という気持ちが表れるという。これら２つの要素をどう学習プロセスに活かすかが，子どもたちの意欲を高め，自尊感情に働きかける単元づくりとなるポイントである。

（２）自尊感情に働きかけるポートフォリオとしてのマイタウンマップコンクール

地域貢献単元は，どの学年も４０時間以上の長い単元で，子どもたちは約８ヶ月間から１０ヶ月間活動している。この期間には，子どもたちがイメージしたとおりには行かず，天候の影響を受けて育つ予定の作物が育たなかったり，グループ内で些細なトラブルがあったりすることもある。しかしその都度，話し合わせる機会を持つことで，友だちのよさ，自分のよさに気づくきっかけになることも多い。

さて本校の場合，友だちのよさや自分自身のがんばりを必ず意識する場面を取り入れている。主に第三次と第四次の学習ステップに，ポートフォリオした学習活動の記録を整理する活動があるのである。子どもたち同士で撮り合ったデジタルカメラの写真やふり返りレポートなどは色あせない記録である。これらを小グループに分かれて整理する時，必ずといっていいほど「あの時，がんばったよな」といった自尊感情を高めるつぶやきや「○○さんがとてもいっしょうけんめいだった」といった改めて友だちのよさに気づくつぶやきを耳にする。

子どもたちだけでなく，活動を支えてきた教師にも発見がある。特に若い教師は整理する過程で，学習のつながり

に気づき，満足感とともに学習のつながりの大切さを実感しているようである。子どもたちは，このステップで整理した記録集に達成感を味わえば味わうほど、よいものにしたいと考えるし，「マイタウンマップコンクール」のような作品コンクールに出品することを伝えると意欲的に整理・編集しようとする子どもたちも増え，意識の高い学習ステップにすることができる。そういった意味で，教師は，学習プロセス作成時には，学習記録を整理・編集するステップを意識しておくことが大切である。

（３） 子どもの学びが教師の思いを変え，受賞によってますます子どもたちが意欲的に

昨年度「姫新線 OK プロジェクト」の学習記録をまとめたデジタル記録集が，第１５回マイタウンマップコンクールで内閣総理大臣賞を受賞した。予期せぬ受賞に子どもたち１６０人も、かかわる教師６人も驚くばかりであった。

本校は，全学年４～５クラスあり，しかも経験年数１０年未満の教師が半数以上である。昨年度４年生も６人中４人が３年未満の教師であった。地域貢献単元は学年全員で取り組んでいる活動である。人数が多くても活動レベルを下げないためには，教師のチームワークがポイントである。役割を決める段階で，それぞれの特技を活かし，自信を持って子どもたちにかかわれるようにしようと考えた。その結果，テーマ曲「OK！行こう」は音楽の得意な新任教師がサポートしてできあがり，ＰＲカードは図工の得意な臨時講師がサポートしてできあがったのである。１２月に行った成果発表会で代表あいさつをした若干３年目の教師は，子どもたちとともに活動した数ヶ月間の様々なことを思い出し，涙で声にならなかった。子どもたちの意欲に応えようと頑張ってきたからこその証であろう。

また子どもたちは，受賞をきっかけに，一段と意欲的になった。学習単元が終わっても「自分たちにできること」を継続しようとしているのである。一つ目はプルタブ集めを続けていることである。今年３月に新駅舎となる本竜野駅に車いすをプレゼントするためである。目標は６年生の夏。それに向けて自主的に全校に呼びかける姿は頼もしい。もう一つは２００９年８月に遭った兵庫県西部北部豪雨で交流していた佐用町や姫新線が被害にあった時，真っ先に募金活動を提案し，駅やスーパーに立って，呼びかけ５０７０円を佐用町に届けたことである。学年が変わっても意欲的な姿に旧担任も目を細めている。

写真２　募金活動

３．つながる実践に

（１） 姫新線ＯＫプロジェクトの実践とは

姫新線を学習に取り入れて今年で４年目となる。乗客数が減少するローカル線を県，市とともに沿線にある小学校と交流しながらみんなで応援しようとする取り組みである。３年目に行った姫新線 OK プロジェクトは，２年目までの応援活動に交流活動を取り入れた実践である。OK には，姫新線が「まちとまちをつなぎ，人を運んでいる」ので，小宅小学校４年生も，応援（O）する活動を通して，地域の方や沿線の小学校との交流（K）を深めながら，「心と心をつなぎ，やさしさや温かさを運ぼう」という願いが込められている。

写真３　ひまわり交流

（２） 姫新線 OK プロジェクトから姫新線ＧＯＧＯプロジェクトへ

地域に貢献する活動を仕組む場合，学習活動が次年度につながることが大切である。本校では，全体計画に位置づけているので，どの学年も継続して行っている。姫新線の学習に関しても４年目を迎えた今年は，姫新線ＧＯＧＯプロジェクトとして活動を継続している。ＧＯＧＯには「元気に（G）応援（O），ぎゅっとつめよう(G)思いやり（O）」といった今年の子どもたち１５３人の思いが込められている。活動は，昨年の応援活動や交流活動はもちろん，新駅舎を記念した名産品「姫新線どら焼き」づくりにも取り組んできた。サポートする教師はメンバーを一新し５人中４名が経験年数１０年未満とフレッシュな顔ぶれである。しかし昨年までの単元の流れがあることや研究推進が総合コーディネーターとしてかかわることで，子どもたちの思いを大切にした活動が展開できたのである。時間の流れとともに動くまちの流れを受け，それに合った活動を取り入れていくためにも，つながる実践が望まれる。

写真４　姫新線どら焼き

４．終わりに

今年の学校評議委員会で，地域のある委員から「学校ががんばっている。私たちも学校に何か協力できないか。」と問い合わせがあった。それを聞いた職員はうれしさでいっぱいだった。総合的な学習の時間を創るにあたり，「人とのかかわり」は欠かせない。教師の思いが，子どもたちの意欲を変える。そこから生まれた子どもたちの熱い思いが，教師の心を変え，地域の心を変える。そのようなかかわりが生まれる地域貢献活動をこれからも大切にしていきたい。